

各区自治協議会の活動・運営における 課題解決に関する情報共有

北区自治協議会

1. 第1部会

(1) 区民アンケートについて

- **実施する場合、どのような目的や考え方が望ましいか**
 - ・若い世代向けにSNSを活用した「一言ニーズ」
 - ・自治会・町内会、PTAを通じて区民のニーズを取りまとめる。
 - ・区のイベントや自治協議会提案事業の時に来場者にアンケートをとる。
 - ・自治会、コミュニティ協議会、学校など小単位での意見交換で把握する。
 - ・子どもから高齢者まで、幅広い世代から意見を聴取すべき。そのためには紙だけでなく電子媒体を活用すべき。
 - ・幅広い内容のアンケートではなく、分野ごとのアンケートにする。
- **実施すべきかどうか**
 - ・自治協議会に対する区民の認知度が低い状況での実施は慎重を要する。
 - ・改選時期にアンケート実施。
 - ・0からとるのではなく、必要な時、目的をもってどういう範囲で誰にいつやるのかしっかり検討したほうがよい
 - ・各所属団体の課題はあるが、自治協議会は事業が決まっているので伝わらない。
 - ・自治協議会を知ってもらうためにもアンケートを実施した方がよい。
 - ・意見を募るのではなく意見を聞きに行く。(地域の茶の間や自治会行事など)

2. 第2部会

(1) 区自治協議会の認知度向上について

- **どのような人に認知されることが重要か**
 - ・中学生、高校生や大学生に認知してもらう事で意見や参加が増える。
 - ・若い世代に認知してもらう事で北区について考えるきっかけづくりとなる
- **どのような取組で認知度を上げていくことが望ましいか**

- 北区の発展につながる産業、文化、伝統、自然環境及び社会生活に関する課題を毎年度いくつか取り組み、その結果を市に提言し活動報告する。
- 自治協議会委員が小中学校に「自治協とは」の出前授業をする。
- 区役所だよりで定期的に自治協議会の様子を伝える。
- 毎年いくつかの課題について検討し、提言を区役所だよりなどに掲載。
- SNSで自治協議会PR動画を配信。
- 提案事業は参加型を増やす。
- 地域課題の解決や住民ニーズへの取り組み

3. 第3部会

(1) 委員研修に盛り込むことが望ましい内容について

- 年度の最初に区の事柄全てについての説明
- 自治協議会の行政組織上の位置づけ、他都市の活動事例
- ビュー福島潟のレンジャーからの講義
- 他区の自治協議会の見学
- 福祉施設の見学
- 北区の歴史について郷土博物館学芸員からの説明
- 8区全体の交流会・意見交換会

4. その他

- 自治協議会の運営形態は、現状連絡・報告。承認などが主で、北区全体に関係する課題解決に向けた協議の場とはなっていない。区ビジョンまちづくり計画より、短期・中期に分け、毎年いくつかの主要項目を選び、市に対し意見書などを提出できるような運営を望む。
- 協議する課題の選定及び会議の運営方法を検討する総務部会を、10人程度に増員してはどうか。
- 協議項目によっては、専門家との意見交換の場を設ける。
- 自治協議会の委員に現役世代や若者が少ない。それらの世代が参加できるよう事業所へ協力依頼をしてはどうか。